

被災者にボランティアで整体

前田晋吾さん

今年4月に西宮市から働きかけて参上。ライでの経験。「体に触れて一睡れて暮らしていた家  
 青垣町大塚に移住して、ボランティアで整体をする。話を聞いただけでいい。特 族が手伝いにきてくれた。  
 まはかなりの整体師の前アをする。被災地 別に意識しないように意 孫がにきやかで」。  
 前田晋吾さん(34)は、妻へは行かず、避難所での「職した」と振り返る。 被害の状況、家族のこ  
 前山コミュニティセンターで活動が再開された。フェ「土砂が100センチも積もつ」と、そして戦時中の話ま  
 避難所となったライビ イスブックで告知したとた「昔から被害が少な で、体がほくれるのと同  
 さいとまで、被災者に  
 さいのひとを通過し  
 てもらって整体のボラ  
 ンティアを始めた。 避難  
 所が閉鎖となった後も  
 前山コミュニティセンタ  
 ーで活動を続けている。



平成26年8月16日  
丹波市豪雨災害

自分にできること確認

前山コミュニティセンター、市内、篠山市の7 いとこあやつたのに」 時に、被災者の口からは  
 アとして積極的に入参 人の同業者などが協力を 「強い雨が降ると怖いわ」さまざまなの声があふ  
 返った。とろが同セ 申し出てくれた。 「ボランティアに助けて れ出した。普段は自宅の  
 ンターで出会った知人の 被災者と向き合う初め もらってありがたい」 2階上がるこぼはなかつ

たんばスポーツ

夢に備えコツコツ努力

をいつか...



被災者と会話を交わしながら体をほくす  
前田さん=前山コミュニティセンターで

たのに、避難や片付けな たのに、避難や片付けな 女性に、豪雨がもたらし  
 どで2階へ上り下りする くなったこともあり、ポ いた暮らしの変化に気づか  
 機会が増え、「ひざが痛 くなった」と訴える高齢 された。  
 ランティアをする日は多 くの人が来てくれる。自

身にどういった、一休をわ  
 わって話を聞いていたのだ  
 け「だが、早い時間から  
 待っていてくれる人もい  
 れば、「もったいないこ  
 と」と感謝もしてもらい、  
 やりがいいと感じる。  
 その一方で、頭をもた  
 げ始めたのが、「いつま  
 で活動を続けるか」とい  
 うジレンマだ。仕事との  
 両立がいつまでできるか、  
 被災者の自立の邪魔になっ  
 ていないか、同業者の仕  
 事をとっていかないか、こ  
 んなに頼られてよいのか  
 正解のない自問自答が続  
 く。ただ、「今回の活動  
 を通じて、自分にもでき  
 ることはあるんだと確認  
 できた」と笑顔を見せた。  
 (菅田安生)